



東地中海地域ニュース

シリア：ムアッリム外相のイラン訪問

(4月8日付現地各紙)

8日、ムアッリム外相はイランを訪問しモッタキ・イラン外相と会談した。概要以下のとおり。

1. 8日、ムアッリム外相はモッタキ・イラン外相と会談し、様々な分野での両国間の協力の必要性、およびイラク情勢やパレスチナ情勢等について話し合った。また、外相は自身のバグダット訪問と、その際に行われたイラク高官との会談についてモッタキ外相に説明した。

2. 合同記者会見でのムアッリム外相の発言

(1) 今回のイラン訪問は、両国の関心事に関する継続的協議の枠内のものである。過去数ヶ月間に地域及び世界で起こった急速な進展につき建設的で実りの多い会談ができた。

(2) (イスラエルの現政権、前政権のパレスチナとの交渉に関する記者からの質問に対し) シリアをパレスチナ問題から切り離すことは誰にもできない。シリア・パレスチナ間の歴史、地理、国民のつながりはイスラエルであってもそれ以外であっても切り離すことはできない。我々シリアにとって、和平は公正かつ包括的で、エルサレムを首都とするパレスチナ国家の建設、パレスチナ人の帰還権、1967年ラインまでのイスラエルの撤退、レバノンの占領地からの撤退を含んでいなければならない。これなしには地域の和平について協議するのは困難である。

(3) (イランの核問題への仲介に関して) バッシャー大統領は、最近のテヘラン訪問時の記者会見において「シリアはイラン核問題の仲介者ではない」と述べた。シリアは、イランには平和利用のためウラン濃縮の権利があると信じている。

3. 記者会見でモッタキ外相は、シリア・イランの両国は、レバノン問題解決とドーハ・サミットにおける合意達成に重要な役割を果たした国であると述べた。